



令和7年度障害者総合福祉推進事業
制度等で給付されない支援機器における障害当事者の
購入動機及び購入に至る過程に関する実態調査

自分らしい暮らしを叶えるために
～障害当事者に支援機器が届くまでストーリー集～

2026年3月
株式会社日本総合研究所

「自分らしい暮らしを叶えるために～障害当事者に支援機器が届くまでストーリー集～」(以降、ストーリー集)では、制度外の支援機器を使用する**障害のある方18名に実施したインタビュー**をもとに、**支援機器が届き、活用するまでのエピソード**をまとめました。

障害のある方が自立した日常生活を送り、社会参加するためには、支援機器は欠かせないものです。最近では、**障害者の生活を便利にする道具やグッズ、アプリ・ソフトウェア等の制度外の支援機器**の開発も進んでいます。

一方で、それらの支援機器については、補装具費支給制度や日常生活用具給付等事業といった制度の対象とならないため、障害のある方々が**どのように支援機器の情報を知り、選び、購入し、使用しているのか**、実態は明らかになっていません。

本ストーリー集は、支援機器を使用する**障害当事者や家族、支援者**の皆様が、**支援機器を購入・使用しやすくなる**、また、支援機器**開発・販売に取り組む企業**の皆様が、**支援機器の販売及び普及に向けた効果的な方法を検討**するために、作成いたしました。

ぜひ、多くの皆様に読んでいただき、なにか活用のヒントが見つければ幸いに思います。

本ストーリー集は、障害当事者へのヒアリング調査、および検討委員会での議論を通して作成しました。

本ストーリー集における支援機器の定義

本ストーリー集では、支援機器を以下のとおり定義しています。

障害者の生活を支援する幅広い範囲を包含する機器の総称。

※デジタル、ICT、AI、ロボット技術等といった最先端の要素技術が含まれる機器も範囲に含まれる。

※医療専門職が使用する医療機器については対象外とする。

<ストーリー集で紹介している支援機器>

肢体不自由のある方が使っている機器

- パソコン用のソフトウェア、キーボード等の付属品
- スマートフォンの首下げストラップ
- 家電用のフットスイッチ
- 車椅子に使うひじ掛けパッド
- ゲーム機のコントローラー
- 軽い力で押せるハサミ
- 導尿に使う道具をしまうポーチ

聴覚障害のある方が使っている機器

- 補聴援助システム
- 会話可視化ツール

視覚障害のある方が使っている機器

- ルーペ
- 突起のついたシール
- 拡大読書器

精神障害のある方が使っている機器

- 認知行動療法に対応するアプリ

若年性認知症のある方が使っている機器

- 日時が分かりやすい表示の時計

発達障害のある方が使っている機器

- 布張りの箱型筆箱

18人の支援機器にまつわるストーリー

ストーリー集では、障害のある方がこれまでにたくさん経験した支援機器を**知り、選んで購入し、自分に合うように調整して活用する**までの流れのなかで、**感じたことや重視したポイント**を一部抜き出し、一人一人の物語（ストーリー）にしました。

きっかけ	情報収集	機器選定	機器購入	機器使用・適合
本人の気持ちや家族の思いが支援機器を探すきっかけとなった Aさん、Bさん →p4,5	SNSを使って情報収集している Eさん →p8	お試し利用を通じて自分に合ったものを選んでいる Iさん →p12	デザイン性の高さが購入の決め手となった Lさん →p15	自分なりに工夫しながら支援機器を使っている Oさん、Pさん →p18,19
支援者の気づきや助言が支援機器を使うきっかけとなった Cさん、Dさん →p6,7	当事者コミュニティで情報収集している Fさん、Gさん →p9,10	動画や口コミを参考に自分に合ったものを選んでいる Jさん →p13	友人の紹介が購入の決め手となった Mさん →p16	周囲のサポートを受けながら支援機器を使っている Qさん、Rさん →p20,21
	支援者から情報提供を受けている Hさん →p11	優先順位をつけて支援機器を選んでいる Kさん →p14	職場が支援機器の導入を行った Nさん →p17	

本人のできることを増やしたいという家族の思いがキーボード導入のきっかけとなったAさん

Profile

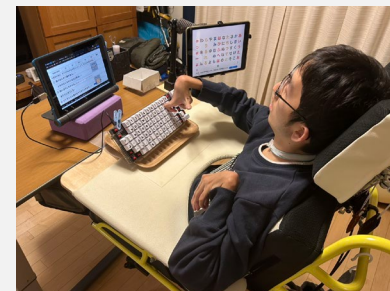
Aさん（10代・男性）



事故により頭部外傷を受傷。
四肢麻痺となり、車椅子とベッドの移乗にはリフトを使用、パソコンの操作には専用のキーボードを使っている。

● Aさんが宿題をするために 欠かせない支援機器

- ・パソコン用キーボード
- ・タブレット端末



Aさんが宿題をしている様子

※写真はご本人提供

Aさんに合うパソコン用キーボードの購入・使用のエピソード

きっかけ

情報収集

機器選定

機器購入

機器使用・適合

Aさんの退院後、学校に通うようになったが、**Aさん自身での筆記ができないため**、学校から出された紙の宿題に、Aさんが**タブレット端末に入力したものを保護者が書き写していた**。しかしタブレット端末での入力では予測変換を使うこともあり、**本人の学習になっているのか疑問**に感じていた。

在宅介護を支援してくれる訪問看護師を通じて知り合った支援者に相談したところ、**Aさんが可能な動作に合わせてパソコンのキーボードを制作してくれたため**、購入することにした。また、学校の先生にも**Aさんの知識レベルに応じた宿題を出してもらうよう働きかけた**。

キーボードを使うことで、**Aさん自身で宿題を行うことができるようになった**。さらに、支援者と学校の先生が、Aさんができるようになったことについて連携した結果、紙の宿題がUSBによるデジタルデータで出されることになった。それにより、Aさん自身の学びにも直結しているように感じている。



Check !

Aさんの家族が支援機器を**選ぶとき**に重視するポイント

- ・支援機器を活用することで**Aさんのできることが増えること**、Aさんができると**家族としても確信が持てた支援機器を選択すること**。
- ・講演会や展示会等に参加し、当事者や支援者とのつながりから得られた情報を基に支援機器を選択すること。

周りの友達と同じものを使いたいという気持ちを重視して友達と同じに見える筆箱を購入したBさん

Profile

Bさん（10代・男性）



自閉症があり、小学校の支援学級（言語クラス）に通っている。
毎日の学習や生活が便利になるような
道具を使っている。

● Bさんの学校生活のために 欠かせない支援機器

- 布張りの箱型筆箱
- リコーダー用演奏補助シール
- 結ぶ必要のない靴紐



Bさんが気に入っている
友達と同じに見える筆箱

※写真はご本人提供

Bさんに合う布張りの箱型筆箱の購入・使用のエピソード

きっかけ

情報収集

機器選定

機器購入

機器使用・適合

小学校低学年の頃は、中に仕切りがある箱型筆箱を使っていたが、**学年が上がるにつれ、クラスの友達が布タイプの筆箱を使うようになったことをきっかけに、Bさんも同じように布タイプの筆箱をもちたい**と思うようになった。しかし、布タイプは仕切りがないため、中身がごちゃつき、必要なものを取り出すことが難しかった。

Bさんの気持ちを尊重し、文房具屋に**Bさんが使いたいと思う筆箱を探しに行った**。実際の店舗で外側が布張りになっている箱型の筆箱を見つけ、これなら**友達と同じ筆箱に見える**、と購入を決めた。

外側は布タイプのように見えるが、中身は箱型と同じように仕切りがついているので、**学校でもこれまでと変わらず使えている**。



Check !

Bさんの家族が支援機器を**選ぶとき**に重視するポイント

- 同級生が使っているものと同じものを使いたいというBさんの気持ちを尊重しつつ、**Bさんの困りごととも解消できるものを選択すること。**
- **学年が上の子どもを持つ友人から得た情報も元に、Bさんの成長に伴って必要になるものを判断すること。**

支援者の日々の関わりの中での気づきが分かりやすい時計を探すきっかけとなったCさん

Profile

Cさん (50代・女性)



若年性認知症をもちながら、猫と一緒にひとり暮らしをしている。カレンダーや時計を使って予定を管理しながら、本屋さんで週1回働いている。

●Cさんの生活や仕事のために 欠かせない支援機器

- 時間が分かりやすい時計
- 学生と一緒に制作したカレンダー
- スケジュール管理用の手帳
- 自転車



Cさんが時間を
間違えにくくなった時計

※写真は[メーカーHP](#)より引用

Cさんに合う日時が分かりやすい時計購入・使用のエピソード

きっかけ

情報収集

機器選定

機器購入

機器使用・適合

小型のアナログ腕時計を長く使っていて、**自分では不便には感じていなかった**。しかし**仕事に行く時間を間違えることが続き、その様子を見た若年性認知症支援コーディネーターから、もう少し日付や時間が確認しやすい時計に変えたらどうか、とアドバイス**をもらった。

自分に合った時計を探すため、支援機関が参加しているプロジェクトの一環で時計を開発する企業の開発に参画した。**実際に4つの時計を見比べて、どの時計であれば、日付や時間が分かりやすいか、選んで日時が大きく表示されるデジタル時計をお試しで使っている。**

初めは慣れていなかったこともあり、使いにくいと思っていたが、**見慣れると徐々に分かりやすいと感じている**。
今のところ、時間の間違いも少なくなっている。



Check !

Cさんが支援機器を**買うとき**に重視するポイント

- **通っている支援機関の若年性認知症支援コーディネーターがおすすめする製品であること。**
- お店での買い物では**店員さんにお勧めしてもらい買いたいと感じたものを購入するようにしていること。**（ただし、うまくいくときもいかないときもある。）

支援者の助言をきっかけに自分の生活上の困りごとを自覚し、ドライヤーを使いやすく改良したDさん

Profile

Dさん（60代・女性）



筋萎縮性側索硬化症により
電動車いすを使用している。
自分で工夫をしながら道具を使うことが
好き。

●Dさんの日常生活のために 欠かせない支援機器

- ドライヤースタンド
- 磁石式充電ケーブル
- スマートスピーカー・リモコン



Dさんのドライヤーと
フットスイッチ設置の状況

※写真はご本人提供

Dさんに合うドライヤースタンドとフットスイッチの導入・使用のエピソード

きっかけ

情報収集

機器選定

機器購入

機器使用・適合

手に力が入らなくなってきたことにより、日常でのドライヤー使用が難しくなっていたが、かなり苦労しながらも、こんなものだろうと使い続けていた。ある時、**かかりつけ医と連携している支援機器の活用に関する支援者から、ドライヤーを使うのに困っているのではないかと質問を受け、初めて自分が困っていることを自覚した。**

支援者が制作した、電源のON / OFFをフットスイッチで利用できるドライヤーの固定台を購入した。

使い始めた当時は非常に便利だったが、病状の進行によってフットスイッチ式でのドライヤー使用も難しくなった。
ただし、**アイデア自体は、他の動作にも応用できることに気が付き、ベッドサイドで電気を消灯するときのスイッチで活用するなど、今の生活に活かすことができています。**



Check !

Dさんが支援機器を**選ぶとき**に重視するポイント

- **必要な支援機器や使い方を自分で考え、情報を調べたうえで**選択すること。
- 病状の進行によって身体の変化することから、身近な支援者等のサポートを得つつ**支援機器等の調整が可能かどうか**も重視。

SNSのおすすめ機能で紹介される動画を情報収集に活用し、首下げストラップを購入したEさん

Profile

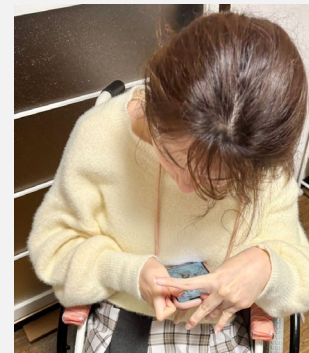
Eさん（20代・女性）



脳性麻痺があり、日常生活にはすべて介助が必要だが、ヘルパーの支援を受けながらひとり暮らしをしている。

●Eさんの日常生活のために欠かせない支援機器

- ・スマートフォンの首下げストラップ
- ・ゲーム用コントローラー
- ・スマートフォン・タブレット端末
- ・電動車椅子（補装具費支給制度にて購入）



Eさんがスマートフォンを操作している様子

※写真はご本人提供

Eさんに合うスマートフォンの首下げストラップ購入・使用のエピソード

きっかけ

SNSのショート動画や動画サイトが好きで、毎日なげなくチェックしている。
たまたま**スマートフォンの首下げストラップの動画**がおすすめ機能で流れてきたことで、こんな商品があるんだ、便利そうと興味を持った。

情報収集

機器選定

購入するためにはやはり実物が見てみたかったので、インターネットで調べて首下げストラップを売っている家の近くのお店に見に行った。
そのお店でちょうど気に入る色があったので、そのまま購入した。

機器購入

機器使用・適合

今はスマートフォンに首下げストラップを付けて使っている。
電動車椅子で操作するときにも安定していて、スマートフォンの操作もしやすくなったと感じている。



Check !

Eさんが支援機器を**選ぶとき**に重視するポイント

- ・インターネット上で製品の情報が得られること。**特に、SNSのショート動画や動画サイトから実際の製品や使用イメージが湧きやすいこと。**

SNS上の当事者コミュニティを使って車椅子のひじ掛けパッドを購入したFさん

Profile

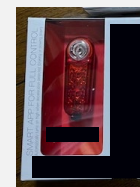
Fさん (50代・男性)



球脊髄性筋萎縮病により
外出には車椅子を使用している。
ひじ掛けパッドやBluetoothのライト等
市販品を工夫して車椅子に使いながら、
外出しやすい環境を作っている。

●Fさんの車椅子での外出のために 欠かせない支援機器

- ・ 車椅子のひじ掛けパッド
- ・ 車椅子のBluetoothライト



Fさんが車椅子につけているパッドや
夜間用のBluetoothライト

※写真はご本人提供

Fさんに合う車椅子のひじ掛けパッド購入・使用のエピソード

きっかけ

情報収集

機器選定

機器購入

機器使用・適合

車椅子を使用する際に、自分の身長に合わせて、手を楽な位置に置けるようにし、身体への負担を軽減したいと考えて、ひじ掛けパッドとして使える製品を探そうと思い、普段から情報収集しているインターネットやSNS上にある車椅子ユーザーのコミュニティで情報を集めた。

車椅子用製品は購入前に試すことがほとんどできず、商品が届いてから初めて使うことが多いが、SNSのコミュニティに掲載されていた動画で実際にその製品を使っている人の様子を確認し、便利だと思ったものをインターネットで購入した。選ぶときには厚みなどの機能面を重視し、その中でできるだけ安い製品を選んだ。

ひじ掛けパッドがあったほうが車椅子で過ごしやすいため、今後使っていて壊れたり、もっと良い製品が見つかったりしたときには、買い替えながら使い続けたいと考えている。



Check !

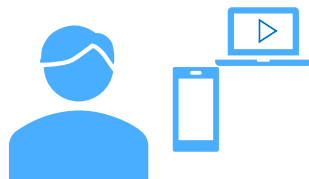
Fさんが支援機器を買うときに重視するポイント

- ・ **機能を最優先**。その上でも安価であること。
- ・ 車椅子用の製品については、**インターネット等で実際に使っている人の様子が見ることができる**こと。

同じ障害を持つ仲間や支援機器開発企業の情報発信を通じて情報収集しているGさん

Profile

Gさん (60代・男性)



幼少期に中等度難聴になり、8歳のころから補聴器を使い始めた。社会人になり、同じ障害のある仲間に出会ったことで、補聴器以外にも様々なコミュニケーション方法があることを知り、様々な支援機器を試して活用している。

● Gさんのコミュニケーションのために 欠かせない支援機器

- ・ 補聴器（補装具費支給制度にて購入）
- ・ 文字起こしアプリ
- ・ 電話リレーサービス
- ・ 補聴援助用デジタルマイク



Gさんが使っているマイクとアプリ

※写真はご本人提供

Gさんの普段の支援機器の探し方や購入・使用のエピソード

きっかけ

情報収集

機器選定

機器購入

機器使用・適合

大人になってから、コミュニティを通じて**同じ障害のある友人と出会い、自分の聞こえ方について理解が深まり、得られる情報も多くなった。**インターネットで情報を調べたり、自分自身もブログで情報を発信している。**SNSを利用して新しい情報を得たり、メーカーの広告から製品を知る**こともある。

製品選びでは、**製品の口コミや同じ障害のある人が実際に使っている様子を動画で参考にし、できるだけ自分で試してみることを大切にしている。**
自分の聞こえ方や補聴器について学ぶことで、自分に合った製品を選べるようになった。

実際に使ってみて、合わないと感じた場合はその製品の使用をやめている。
また、販売が終了してしまう製品もあるため、長く使い続けられるものを選ぶようにしている。



Check !

Gさんが支援機器を**選ぶとき・買うとき**に重視するポイント

- ・ まずは、**自分の聞こえ方や、補聴器について理解を深めたうえで**、自分にあった製品であると感じられること。
- ・ 見つけてすぐ買って失敗した経験から、**人の口コミや使っている様子を見る、実際に試すことで、製品が便利だと実感できること。**

支援者の情報提供を受けながら、ゲームを続けるためのコントローラーを購入・使用しているHさん

Profile

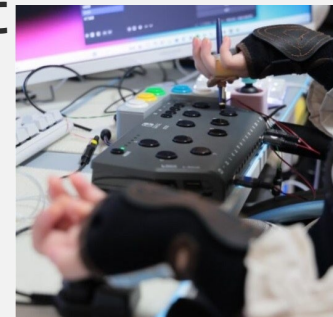
Hさん（20代・女性）



頸髄損傷により、四肢麻痺となるも、自分のやりたいことを実現するため、支援機器を使って環境を整えている。

●Hさんの日々の楽しみのために 欠かせない支援機器

- ゲーム機のコントローラー
- スマートホームデバイス
- 装着型マウス（日常生活用具等給付制度にて購入）



Hさんがコントローラーを操作している様子

※写真はご本人提供

Hさんに合ったゲーム機のコントローラーの購入・使用のエピソード

きっかけ

情報収集

機器選定

機器購入

機器使用・適合

障害を持つ前からゲームをしていた。入院中にゲームがしたいことを病院のリハビリスタッフに伝えたところ、リハビリスタッフから、パソコンやゲーム機等の導入・使用に詳しい**支援機器の活用を支援する支援者を紹介してもらった。**

支援者からユニバーサルコントローラーや自分に合った入力デバイスを作れることを教えてもらい、ゲームができるようになるなら、と早速ユニバーサルコントローラーを購入し、入力デバイスの制作をお願いした。

その後は、病院のリハビリでもゲームを取り入れてもらった。
このコントローラーと入力デバイスはパソコンと接続して使うこともできるため、**自宅でも使えるように支援者に設定をしてもらい、今も自宅で使い続けている。**



Check !

Hさんが支援機器を**買うとき**に重視するポイント

- 支援機器は一つ一つ高価なものも多いため、**試してみて自分が使えること。**
- **自分のやりたいことを実現するために**、自分で調べたり、家族や支援者に相談することで、必要であると感じられること。

支援機器のお試し利用を通じて、自分に合った補聴援助システムを選んでいるIさん

Profile

Iさん（20代・女性）



先天性感音性難聴があり、小学生から補聴援助システムを使っている。授業のたびに先生にマイクを付けてもらい、マイクを通じて直接音声が聞こえる仕組み。現在は大学生で、講義やゼミに参加している。

●Iさんの学校生活のために 欠かせない支援機器

- ・補聴援助システム
- ・文字起こしアプリ
- ・右耳に人工内耳、左耳に補聴器（補装具費支給制度にて購入）



Iさんが大学で使用していたマイク

※写真はご本人提供

Iさんに合った補聴援助システムの購入・使用のエピソード

きっかけ

情報収集

機器選定

機器購入

機器使用・適合

小学生の頃から入学前や学年が上がる前に、親と一緒に学校と面談し、支援機器の必要性を説明して、学校側に補聴援助システムを用意してもらっていた。

大学に進学するにあたって、事前に障害者支援について調べたところ、障害支援室があることを知り、入学前に相談し、面談を受けた。支援室では複数種類の補聴援助システムを試すことができ、講義形式やゼミ形式など、授業の形式に合わせて、適切なシステムを使い分けている。

年に1回ほど、支援室で定期面談を行い、補聴援助システム的使用方法について提案・助言を受けている。また、クラスでの自己紹介の際には、自分の聴覚障害や使っている機器について説明し、学校の先生やクラスメイトの理解と協力を得ることで、支援機器を継続的に利用できている。



Check !

Iさんが支援機器を**選ぶとき・使うとき**に重視するポイント

- ・支援機器を選ぶとき、**不安に感じた場合は、大学の支援室や同じ障害を持つ友人に相談すること。**
- ・学校の先生やクラスメイトに支援機器の使い方や障害について説明し、理解してもらうこと。

動画や利用者の口コミを参考に軽い力で押すことができるハサミを購入・使用しているJさん

Profile

Jさん（30代・男性）



脳性麻痺があり、自宅環境を整えて家族とともに生活している。
就労支援事業所では、目標工賃達成指導員としてパソコンを使った仕事をしている。

●Jさんの仕事や生活のために 欠かせない支援機器

- 軽い力で押すことができるハサミ
- パソコンスタンド
- 車椅子用のドリンクホルダー
- 座位保持装置



Jさんがハサミを使っている様子

※写真はご本人提供

Jさんに合った軽い力で押すことができるハサミの購入・使用のエピソード

きっかけ

情報収集

機器選定

機器購入

機器使用・適合

普段から、インターネット検索で支援機器等を探したり、情報を収集したりしている。
Jさんは脳性まひによる影響で手に力が入りにくいため、検索バーに「軽い力 ハサミ」等のキーワードを入れて検索したところ、「カスタネットはさみ」という、軽い力で押すことができるハサミがヒットした。

口コミや使っている様子の動画を見て、自分でも使えそうと思った。
価格は1000円ちょっとで、一般的なハサミよりも価格は高めだったが、**自分にとって使いやすいと感じたため、納得して購入した。**

実際に手元に届いて使ってみたところ、もともと想定どおり、軽い力で切ることができたため、気に入って使っている。
生活の中では、他にもパソコンスタンドや座位保持装置などの様々な道具を使っているが、使っているうちに、慣れていくことも多い。



Check !

Jさんが支援機器を**選ぶとき・買うとき**に重視するポイント

- 自分でインターネット検索等を通じて調べ、口コミや動画を参考にして、**必要な道具や支援機器が、自身に合うかどうかを判断すること。**
- 自身にとっての**必要性和費用負担の両方を考え**、支払うだけの価値があると判断できること。

必要な機器を選ぶための条件を設定し、優先順位を決めてパソコン用キーボードを選んだKさん

Profile

Kさん (30代・女性)



脊髄性筋萎縮症があり、長年入院していたが、数年前に支援機器を使用して生活環境を整え、ひとり暮らしを始めた。

現在は大学で支援機器に関する研究を行っている。

● Kさんの仕事のために 欠かせない支援機器

- ・ パソコン用キーボード
- ・ スマートスピーカー・リモコン
- ・ マウス



Kさんがサイズを重視して
選択したキーボード

※写真はご本人提供

Kさんに合ったパソコン用キーボードの購入・使用のエピソード

きっかけ

情報収集

機器選定

機器購入

機器使用・適合

入院していた病院にいたりハビリスタッフの影響もあり、もともと多くの支援機器を使っている。
仕事ではパソコンを使っているが、パソコンでの文字入力をもっと早くしたいという思いから、キーボードを買い替えようと思い、インターネットで検索した。

キーボードを選ぶためにサイズや、ボタンを押すために必要な力になるべく小さいものという条件を決め、その中で予算に合うものを選んだ。
横幅が22cm以下のキーボードを探したが、そもそもそのサイズのキーボードが少なく、選ぶことに苦労した。

キーボードを押すときには、手で押すことができないため、自分で工夫して割り箸を使って操作している。
割り箸であれば、安価に購入でき、使い捨てできて衛生的なため、使い続けやすいと感じている。



Check !

Kさんが支援機器を**選ぶとき**に重視するポイント

- ・ 自身の困難を解決するためにどうすればよいかを考え、それに応える支援機器であると判断できること。
- ・ 必要な機能や予算に条件付けを行い、その条件を満たしていること。

福祉用具らしくないデザインが支援機器購入のひとつの基準になり、ポーチを購入したLさん

Profile

Lさん（30代・女性）



20代のころに病気で胸髄損傷となり、下肢麻痺のため車椅子での生活を送っており、自身の暮らしや便利なグッズをブログで紹介している。イラストレーターの仕事をしている。

●Lさんの日常生活のために 欠かせない支援機器

- ・導尿に使う道具をしまうポーチ
- ・シャワーチェア
- ・背中に保湿クリームを塗る道具
- ・室内・外車椅子（補装具費支給制度にて購入）



Lさんが気に入っているポーチ

Lさんの導尿の道具をしまうためのポーチの購入・使用のエピソード

※写真はご本人提供

きっかけ

情報収集

機器選定

機器購入

機器使用・適合

普段から、欲しいものが決まっていなくても、お店に行くと、便利そうな商品を探ることが多い。特に、見た目がシンプルで、使い方が自分で工夫できるような、使い道の多い商品を取り扱っているお店は、よく利用している。

その日も店内を見て回っていたところ、偶然、導尿に使う道具を持ち運ぶためにちょうど良いサイズのポーチを見つけた。専用のものではないが、そのために逆に**福祉用具らしくないデザイン**であることも気に入り、購入した。

実際に使い始めてからも、ちょうどいいサイズ感が気に入り、使い続けている。同じ障害を持つ当事者にも知ってほしいと思い、自身のブログでも紹介している。



Check !

Lさんが支援機器を**選ぶとき**に重視するポイント

- ・ **福祉用具らしくないデザイン**であること。

同じ障害のある友人の紹介で自分に合ったルーペを購入できたMさん

Profile

Mさん (50代・女性)



先天性の弱視で徐々に見えにくさを感じるようになった。
見えにくさを補うために、ルーペやアプリを使用している。

● Mさんの日常生活のために 欠かせない支援機器

- ルーペ
- スマートフォンのアクセシビリティ機能
- 音声読書サービス



Mさんが気に入っているルーペ

Mさんに合ったルーペの購入・使用のエピソード

※写真は点字図書館提供

きっかけ

情報収集

機器選定

機器購入

機器使用・適合

細かい字などをよく見たいときにぱっと使えるルーペを探していた。

支援機器の展示会に参加したときに、みせてもらったルーペはあまり使い勝手が良くなく、見えにくいと感じて、保留していたが、ある日、点字図書館を通じて知り合った当事者にルーペを教えてもらった。

これまで他の展示会で紹介してもらったルーペは、あまり使い勝手が良くないと感じていたが、**今回紹介してもらったものは見え方が自分に合っていると感じて購入した。**

購入したルーペがとても使いやすかったので、同じ障害のある友人にも紹介した。**友人同士で話をすることは多く、紹介だけでなく新たな支援機器等について情報を得たり、使い方が参考になったりすること多い。**



Check !

Mさんが支援機器を**探すとき**に重視するポイント

- 身近で実際に使っている人の声を参考にすること。
- 支援機関を通じて出会った、**同じ障害の友人と支援機器等の情報共有**をしあうこと。

職場の環境整備の一環として、職場が会話可視化ツールを導入しているNさん

Profile

Nさん (20代・女性)



子どものころから難聴があり、補聴器を使用して生活している。
現在は一般企業で就労しており、会議等にも参加している。

●Nさんの仕事のために 欠かせない支援機器

- 会話可視化ツール（会社が導入）
- 文字起こしアプリ
- 補聴器（補装具費支給制度にて購入）



Nさんの会社での会話可視化ツール導入・使用のエピソード

きっかけ

情報収集

機器選定

機器購入

機器使用・適合

会話可視化ツールの存在は、以前から聴覚障害のコミュニティで聞いたことがあったが、具体的な製品は知らなかった。
ある時、企業間交流会でツールを使っている他社の人に話を聞き、Nさんも使ってみたいと思い、勤務する会社に掛け合ったことで、会話可視化ツールのトライアルを開始することになった。

実際に使ってみたところ、音声の聞き取りの範囲が決まっており雑音が入りにくいため、文字起こしの精度が高く、使いやすいと感じた。
そうした所感を基に会社に導入を依頼し、現在は**会社の負担**でトライアルで1台導入している。近々2台導入する予定になっており、これも**会社が負担している**。

社内には他にも聴覚障害のある社員がいるため、それぞれが必要な時に使っている。
仕事以外で使っている文字起こしアプリよりも誰が話しているのかわかりやすく、精度も高いため、自宅でも使いたいと感じるほどだが、**自費購入するには高額なため、会社が導入してくれてよかった**と感じている。



Check !

Nさんが支援機器を**選ぶとき**に重視するポイント

- 支援機器を選ぶときには、**同じ障害のある当事者の生の声を参考にすること**。

一般製品である家電を自身の特性に合わせて、工夫しながら使用しているOさん

Profile

Oさん (40代・男性)



中途失明で、パソコンやスマホを駆使し、工夫しながら一人暮らしを行っている。点字図書館でパソコン等の操作に関する相談を受けている。

●Oさんの日常生活のために 欠かせない支援機器

- ・突起付きシール
- ・パソコン・スマートフォンのアクセシビリティ機能
- ・カメラアプリ等、各種スマートフォンアプリ



Oさんが使っている突起付きシール

※写真は点字図書館提供

Oさんの家電の購入・使用のエピソード

きっかけ

情報収集

機器選定

機器購入

機器使用・適合

点字図書館で同じ障害をもつ方の相談業務を行っている。
そのため、日常生活で用いる家電類は、**当事者同士の情報共有**や**販売メーカーの情報・データベース等を参照**して情報を集めており、ボタンを分かりやすくするための突起付きシールがあることも知っていた。

家電は、音声が出るものや、液晶ではなくボタン式のもの等を選択し、**突起付きシールを活用して工夫を凝らせば、自身でも操作可能な製品を購入している。**

購入後は早速**ボタンに突起付きのシールを張り付け、どのボタンが何の操作ができるボタンなのか、触れて確認できるように工夫**にしている。また、**ボタンの配置を覚えて使用している。**



Check !

Oさんが支援機器を**探すとき・選ぶとき**に重視するポイント

- ・SNSやインターネットも使いながら積極的に情報を集めること。家電等の一般製品は販売メーカーの情報も参照している。
- ・アプリ開発者のメーリングリスト等を登録して最新情報を入手、導入・実践して使い心地を試すようにすること。

体験版アプリの使用をきっかけに自分にとって使いやすいアプリを自身で制作したPさん

Profile

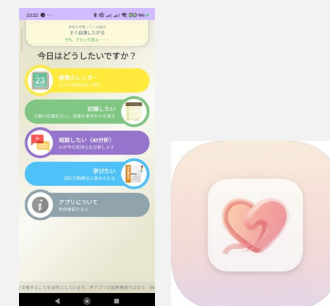
Pさん (40代・男性)



統合失調症を発症。
現在は、自分で調べて繋がりをもったり
ワーク施設に通い、自分で体調を整え
るためのセルフケアを行っている。

●Pさんのセルフケアのために 欠かせない支援機器

- ・認知行動療法に対応したアプリ
(いくつかを試し、自分でも制
作)



Pさんが開発している
オリジナルアプリ

※写真はご本人提供

Pさんに合った認知行動療法アプリの導入・使用のエピソード

きっかけ

情報収集

機器選定

機器購入

機器使用・適合

リワーク施設で認知行動療法を受けたことをきっ
かけに、自分で認知行動療法を使ったセルフケ
アができるアプリを探し始めた。
リワーク施設の支援者や他の利用者からおす
すめのアプリを紹介してもらったり、自分でアプ
リストアを見て探したりした。

認知行動療法に対応したアプリは**価格が高い
ものが多かった**ため、まずは**無料の体験版アプ
リ**を使って試して、実際に使うアプリを選んだ。

**使っているうちに、より自分に合った使いやすいア
プリがほしいと思い、自分のアプリ制作の知識を
活かして、自分が使いやすいと思う**オリジナルのア
プリ**を作って使っている。**



Check !

Pさんが支援機器を**選ぶとき・買うとき**に重視するポイント

- ・自分にとって必要な機能が備わっていること。
- ・無料体験などを通じて自身に合う製品かどうかを確認できること。

友人や知人に協力してもらいながらパソコンを活用しているQさん

Profile

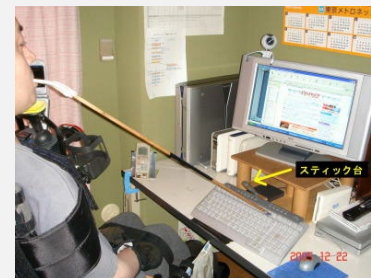
Qさん（60代・男性）



頸椎損傷により四肢麻痺。
現在は一人暮らしをしている。
旅行が趣味で電動車いすを使用しながら各地を巡っている。

● Qさんの日常生活のために 欠かせない支援機器

- ・マウススティック
- ・スマートスピーカー
- ・パソコン周りの機器
- ・車椅子（アタッチメント等は補装具費支給制度の対象外で購入）



Qさんがマウススティックでパソコンを操作している様子

※写真はご本人HPより引用

Qさんに合ったパソコン周辺機器の使用・適合のエピソード

きっかけ

情報収集

機器選定

機器購入

機器使用・適合

障害のある状態になってから、パソコン操作をできるようにするため、入院していた病院のリハビリスタッフと共にマウススティックを利用した訓練を行ってきた。
それによりパソコン操作ができるようになり、メールのやり取りやホームページの制作が生活の中でも重要な活動となった。

パソコン操作のための環境づくりの際には、**機械類に詳しい友人の話**を参考にした。
ほかにもSNSで見た情報をもとにスマートスピーカーなどを購入している。

パソコンの初期設定やセットアップの際にも、機械類に詳しい友人に手伝ってもらうこともあった。
友人だけではなく、ヘルパー等にも依頼しているが、機器等に慣れていないため適切な配置やセッティングの指示に苦労することもある。



Check !

Qさんが支援機器を**選ぶとき・使うとき**に重視するポイント

- ・アナログ・ハイテク機器の両方を活用し、**日常の必需品についてはバックアップとなる環境を用意すること。**
- ・最新の機器は、**SNS等で使っている人の様子を見て、利便性の高さを確認できること。**

支援者や同じ障害の友人と繋がったことで自分に合った拡大読書器を使用できるようになったRさん

Profile

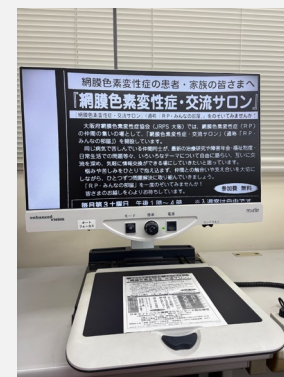
Rさん (60代・女性)



後天的重度弱視がありながら、最近一人暮らしを始めた。点字図書館でスタッフとして働き、視覚障害当事者に障害や支援機器に関する情報提供を行っている。

●Rさんの日常生活のために欠かせない支援機器

- 拡大読書器（補装具費支給制度にて購入）
- スマートフォンのアクセシビリティ機能
- 歩行用アプリ等、各種スマートフォンアプリ



Rさんが使っている拡大読書器

※写真は点字図書館提供

Rさんに合った拡大読書器の購入・使用のエピソード

きっかけ

情報収集

機器選定

機器購入

機器使用・適合

見えにくさを感じ始めたころ、当時暮らしていた自治体の福祉課で、見えにくさを補助するための支援機器の情報提供を受けた。しかし、特定の製品の紹介は行政では難しく、電話帳をもとにメーカーに直接問い合わせを行い、製品の有無を確かめた。

問合せ先のメーカーには**該当の製品が1種類のみあった。すぐに見えにくさを解消したい気持ちがあり、どんな製品が最適かもわからなかったため、紹介されたものを購入した。**しかし、自身の見え方に適合する製品ではなく、見えにくさを感じながら使っていた。

その後、同じ障害をもつ知人から紹介を受けた点字図書館にて、**該当の製品が多種紹介されていることを知った。**
そのなかから、他の製品も試すことで自身の見え方に合う製品を見つけ、利用することができるようになった。



Check !

Rさんが支援機器を**選ぶとき**に重視するポイント

- 自身の見え方に応じて、**使用できる見通しが持てる製品**であること。
- **口コミやレビュー内容の確認や、可能な範囲での機器の体験を通じて、使用感がわかること。**

事業実施概要

1. 検討委員会の設置・運営
- 右記の5名からなる検討委員会を設置し、調査内容や調査結果の整理・活用に関して確認・助言を得た。
検討委員会は全3回実施した。
2. 障害当事者および支援者等を対象としたヒアリング調査
- 障害当事者に給付制度の対象外となる支援機器が届くまでの経緯を明らかにすることを目的として、障害当事者および支援者を対象にヒアリング調査を実施した。
3. 障害当事者および支援者等を対象とした現地調査
- 障害当事者が支援機器を選択・購入・使用する過程や、支援者が機器の活用を支援する過程について、障害当事者と支援者の関わりも含めた実態を第三者視点から把握することを目的に現地調査を実施した。
4. 障害当事者に支援機器が届くまでの実態の整理
- ヒアリング調査および現地調査の結果をもとに、障害当事者に支援機器が届くまでの一連の流れや一連の流れにおける障壁を実態として整理した。また、個々の障害当事者のエピソードをストーリー集として整理した。

有識者検討委員会 委員一覧

五十音順・敬称略

氏名	所属先・役職名
五島 清国	公益財団法人テクノエイド協会 企画部 部長
小林 大作	株式会社アシテック・オコ 代表取締役
正田 勇一	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者雇用開発推進部 雇用開発課 就労支援機器アドバイザー
中村 靖彦	アビリティーズ・ケアネット株式会社 専務取締役
林田 茂	日本ライトハウス情報文化センター サービス部 部長
オブザーバー 事務局	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室 株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門

※事業の詳細な実施事項は、報告書をご覧ください。

令和7年度障害者総合福祉推進事業
制度等で給付されない支援機器における障害当事者の購入動機及び購入に至る過程に関する実態調査

自分らしい暮らしを叶えるために ～障害当事者に支援機器が届くまでストーリー集～

2026年3月

株式会社日本総合研究所
リサーチ・コンサルティング部門
高齢社会イノベーショングループ

〒141-0022 東京都品川区東五反田 2-18-1 大崎フォレストビルディング
TEL : 080-3549-9068 FAX : 03-6833-9480